

## 世界こども美術館と小学校とのヒアリングについて

### 1 世界こども美術館との主なヒアリング内容

- (1) 実施日 令和3年1月15日(金)
- (2) 対象者 世界こども美術館職員
- (3) 主な内容

#### ●連携事業の内容について

- ・ 重視しているのは創作活動における連携。館から働きかけ、市内の施設や企業と連携を深め郷土の資料収集等の協力を受けている。
- ・ 海外との連携では、先進地や指導者との交流をはじめ、アーティストから展示する作品を提供してもらっている。
- ・ 学校との連携では ミュージアムスクール など。
- ・ 出張ワークショップとして保育園や幼稚園にも訪問。
- ・ 企画面では、郷土に関する展覧会の際には地元の協力を得ている。企画自体は学芸員が美術館の設置目的(ねらい)に沿って立案している。
- ・ 「見ることとつくること」を連動させることに重点を置いている。
- ・ 事業連携は美術館から働きかけるということが多い。

#### ●学校との連携について

(ミュージアムスクール)

- ・ 教育の一環であり、学校の教育方針と合致させることが必要。
- ・ 美術館側で企画開発し、学校の年間行事に組み込んでもらっている。学校側との事前打ち合わせが重要。
- ・ 子どもの活動状況を十分に予測し、子どもに与える活動範囲を吟味した試作や材料選びが大切。準備に多くの時間が必要で、内容によると人手も必要となる。
- ・ 基本は美術鑑賞と創作活動の2部構成。昼食をはさんで1日の活動としている。
- ・ 美術鑑賞は学芸員がつきっきりで展示室を探検。学芸員との対話を入れたプログラムとしている。
- ・ 創作活動は「共同で制作」⇒「ダイナミックな創作」⇒「クライマックスがある」という流れをベースにし、学校ではなかなかで

きない活動を実施している。

- ・「もう1回鑑賞券」をプレゼントし、家族と来館し、子どもが学芸員になって説明する仕掛けとなっている。

(その他)

- ・教員の研究会からの依頼により、教材研修・技術研修を引き受けている。
- ・アンデパンダン展は開館からの継続している事業。学校にお願いして募集し、先生が収集、引渡し、引取りをしていただいている。
- ・中学校は部活動で先生が部員を連れてきている。
- ・市外の学校に対しては、遠足や郊外活動の場として提供を行っている。

### ●ファミリー向けのプログラムについて

- ・土・日・祝日に予約なしでフリーに参加できる創作活動や子どもと作家が交流できる創作活動もある。
- ・美術館まつりの中で市民サービスを実施している。

### ●開館後のあゆみについて

- ・1996年11月～2004年まで入館者が3万人代。
- ・2005年～5万、この段階で参加型展覧会を入れた。見るだけの展覧会から、触ることも可能な展覧会の内容とした。
- ・こども美術館まつりや国際交流展覧会は開館5年目から導入。
- ・創作活動のありかたは予約制からフリースタイルへ変更。管理のしやすさからお客さんの利用のしやすさへチェンジした。

<ヒアリングを受けて>

- ▶美術館は創作活動や学校連携を重視しているということを念頭に置き、歴史文化保存展示施設の事業プログラムを検討することが重要。
- ▶学校連携においては、学校の教育方針と合致させることを軸に、学校ではできない機能を補完するような活動の提供が求められる。
- ▶事業プログラムの素案は、開館後の利用者ニーズ調査等のタイミングも含めて段階的な検討が必要。

## 2 小学校との主なヒアリング内容

- (1) 実施日 令和3年1月22日(金)
- (2) 対象者 浜田市教育研究会社会科部会の3年生～6年生担任
- (3) 主な内容

### ●現在の郷土資料館等を活用する際の科目について

- ・ 学校のカリキュラムとしては、3年生の社会科(市の移り変わり)や4年生の社会科(郷土の発展)、6年生社会科(歴史学習)の他、総合的な学習で利用している。また、学校周辺の歴史文化に関する学習もある。
- ・ 実際に出向いているのは3年生が中心。郷土資料館や各自治区の資料館の見学をしている。
- ・ 4年生や6年生の調べ学習では、学校周辺の史跡などもあるため、資料館に出向くことが少ない。

### ●現在の浜田郷土資料館の活用状況について

- ・ 郷土資料館では、学校と事前打ち合わせを行ったうえで見学を実施している。
- ・ 昔の道具の見学では、音や動く昔の道具に直接触るなどして子どもたちの興味を引き出している。
- ・ 見学の際の説明は館長にしている。
- ・ 既存の資料館では触ることができない資料が多いため、子どもたちが操作することで映像が映されるなど、子どもたちが興味を引く仕掛けが必要だと感じている。

### ●展示の在り方について

- ・ 展示は、分野別よりも時間軸とした方が良い。3年生は「昔のくらし」から「市の移り変わり」にテーマが変わり、6年生は時間軸を重視している。
- ・ 水産業などの分野は企画展示でも良い。
- ・ 時間軸の視点として、地図、写真、年表のセットなど、時の流れを感じてもらえる仕掛けが良い。
- ・ 全国的な時間の中での浜田はどうであったのかが分かるようにしてもらいたい。
- ・ 資料が展示されているだけでは、活用がしにくい。単元と合わせ

た展示にしてもらおうと良い。

- ・ 民具については教員も動いている様子を見たことがない世代が増えているため、実物資料と解説パネル、各学年の児童向け口頭説明がセットとなっていると良い。
- ・ 子どもたちには、本物を見て、重さや質感などを感じてもらうことが大切。
- ・ 子どもたちが歴史を好きになり、行ってみたくなるような場所が必要。

### ● 展示室以外の機能で子どもたちに必要な機能について

- ・ 子どもが記録やメモを取ったりする学習スペースが必要。3階奥のコレクション室を学習室にしたり、創作活動室を利用したりできないか。
- ・ 小学校では、令和3年度から児童一人1台のタブレットが配られる。タブレットの使い方はこれから検討となるが、学校での活用状況をみながら展示室での活用方法(記録、事前資料の配布など)も検討していく必要があるのではないか。
- ・ 担任以外の学芸員から説明を聞くことは大切で、自主学習ができるスペースが必要。自主学習はクラス単位で行っている。
- ・ 5～6年生は座学が多いため、外に出るきっかけが欲しい。
- ・ 出前授業は、中学校を含めて喜ばれる。中学校は時間がなく、資料館などに出向くことが難しいと言われている。
- ・ 教員の教材研究や資料提供などの協力や、他市町村も含め、授業のサポートセンター的な役割があると良い。

<ヒアリングを受けて>

- ▶ 学校との連携では、展示室の見学を連携の軸として検討。
- ▶ 展示では浜田の歴史を日本の歴史の中で捉えることができる工夫が必要。
- ▶ 実物を見るだけでなく、映像や体験できる仕掛けの検討が必要。
- ▶ 見学以外には、学校でのタブレット配布などの状況から、見学前の事前学習での連携、なかなか資料館まで出向けない学校向けに出前授業の検討なども課題。